

1 全体計画

**学校の教育目標**

生命及び人権尊重の理念を基調とし、進んで学び、心身ともに健康で人間性豊かな知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を目指し、次の教育目標を定める。

- ◎ 勤勉な人      ○ 誠実な人      ○ 健康な人

**平成29年度学校経営方針**

- 先見性と一貫性があり、生徒・保護者・地域から信頼される学校
- 安全で豊かな人間性や社会性を育み、関わりやつながりを大切にする学校
- 生徒の自己実現に向け、一人ひとりに光を当て、粘り強く指導する学校

**本校の捉える「確かな学力」**

- わかる授業、個に応じたきめ細やかな指導の充実
- 体験的・問題解決的な学習の充実と学習意欲の向上
- 家庭と密な連携による家庭学習の習慣の確立

基礎・基本の習得の徹底

**平成29年度の指導の重点**

<各教科>

- 個別指導、習熟度別指導等の形態や内容の工夫
- 繰り返し教える場面と生徒が自ら思考判断・表現する場面を意図的・計画的に設定し、生徒の意識に喚起
- 小中連携を通しての9年間の学びの連続

<道徳>

- 年間35時間の道徳の授業を要とした道徳教育の推進
- 人権尊重教育の精神に基づき、他人を思いやり、認め合い、支え合う心と態度を育てる場を設定

<特別活動>

- 自主性を育み、学級集団の質を向上
- 生徒会活動、行事、部活動を通して協力や協調、主体的に問題解決する力を向上

<総合的な学習の時間>

- 自ら課題を設定し、解決に向けた学習を实践
- グループ学習を多用し、探究的な学びを通して思考力・判断力・表現力を育成
- ICT機器を積極的に活用し、プレゼンテーション能力を向上

<生活指導>

- 基本的な生活習慣の確立
- 規範意識の向上及び場を意識して行動する力を育成
- 悩んでいる生徒が相談しやすい環境づくり
- 防災教育における自助と共助の能力の向上

<進路指導>

- 自己の進路を選択する能力や態度の育成
- 体験的な活動を通して、生徒が多くの人々に関わる中で社会性を育み、社会に貢献する資質や態度を育成

授業改善の視点

**指導内容・指導方法の工夫**

・数学、英語は、全学年において少人数習熟度別による指導  
 ・ねらいの設定とグループでの話し合い活動の積極的活用  
 ・学習指導支援員による個に応じた学習支援  
 ・スクールカウンセラーや心の教室相談員を活用した教育相談活動の充実

**教育課程編成上の工夫**

・始業前に、全学年において読書活動を展開  
 ・補習教室「まなびや」の効果的な活用  
 ・道徳教育を教育活動の中核として位置付けた教育課程の編成  
 ・特別支援教育や不登校対応が必要な生徒への個別指導計画の有効な活用

**評価活動の工夫**

・学期ごとの授業評価アンケートによる効果検証  
 ・学校評議員の実効化と学校評価に基づく学校改善  
 ・評価の観点の確実な認識と評価方法の改善  
 ・生徒、家庭への学習状況や評価方法の明確な提示

**・校内研究・研修の工夫**

・各種の学力調査の結果を受けての実態把握と分析、各教科等での対策（フォローアップシートの活用）  
 ・体力向上プログラムの改訂  
 ・喫緊の教育課題（特別支援育・道徳・ICT活用）に関する校内研修会と研究授業の実施

**家庭・地域との連携の工夫**

・開校70周年記念事業を軸に学校公開を充実  
 ・三者面談や保護者会の工夫  
 ・各種のおたより、ホームページによる情報発信  
 ・「四中親善大使」をはじめとしたボランティア活動の充実  
 ・福祉機関等の地域関係機関との支援ネットワークの強化

(1) 国語科

<p>国語科の重点</p> <p>○言語事項の基本的な力を身に付ける。 (漢字・文法)</p> <p>○聞き取る力をつけ、自分の考えをまとめて話す力を身に付ける。</p> <p>○読解力を身に付ける。</p> <p>○課題に合わせて的確に書く力を身に付ける。</p>		話す ・聞く力	書く力	読む力	言語についての 知識・理解・技能
	1年生	71.6	76.1	70.5	83.0
	2年生	85.7	89.6	80.5	72.7
	3年生	88.8	78.8	66.3	66.3

(平成29年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○言語事項への達成率は高いが、その他の観点において努力の必要がある。特に文章を読み取る力に課題がある。	<p>①授業では積極的に発言の多い学年であるものの、思いついた内容をそのまま発言する場合がある。</p> <p>②発言者がある程度決まってしまう、他の生徒は聞く側に回ってしまう場面があることも課題である。</p>	<p>①読解力を問うような問題には「なぜそのように考えるか」を説明できるよう、根拠を明らかにした上で解答する活動を授業に設定する。</p> <p>②全体指導だけでなく、ペアワークなど少人数での活動を盛り込み、全員が自分の意見をもてるようにする。</p>
2年	○全ての観点において昨年度を上回ることができたが、言語事項についての達成率は7割程度にとどまっている。 ○漢字については読み取りの問題での正答率が低い。	<p>①授業で単元ごとに漢字の小テストを行っているが、書き取りの問題のみになっている。</p> <p>②文法については基礎となる知識が定着していないため、問題文が読み取れない等の課題がある。</p>	<p>①漢字の小テスト実施の際に読み取りの問題の出題を行う。</p> <p>②夏休みなどの長期休暇に前学年で学んだ文法事項の振り返りを行う。また、授業においても既習事項を繰り返し確認し、定着を図る。</p>
3年	○言語事項の達成率は年ごとに上昇しているが、まだ7割を超えていない。 ○説明的な文章を読み取る力を身に付けていない生徒が見られる。	<p>①漢字の書取りや問題の演習などを授業で行っているが、内容を十分理解させていくには、学習時間の確保のために家庭学習との連携が不可欠である。</p>	<p>①漢字等の小テストを実施し、家庭学習のきっかけとする。また、授業での読み取りの演習問題をする時間を増やし、答え合わせを一斉に行い、確認をする。</p>

(2) 社会科

社会科の重点 ○ 多くの資料や統計を個人やグループで活用・分析させることで、資料活用の技能や思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。 ○ 基礎的な知識を身に付けるとともに、 自分たちの生きる社会との関係を見つめながら、主体的に考える姿勢を育てる。		思考・判断・表現	技能	知識・理解
	1年生	64.8	78.4	65.9
	2年生	64.9	54.5	54.5
	3年生	77.5	80.0	80.0

(平成29年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○区の学力調査から、区の観点別平均達成率に対し、ほぼ全体的に上回っていることがわかった。 一方、社会的事象への関心・意欲・態度の観点別平均達成率が区より若干、下回っていることがわかった。	○社会的事象への関心・意欲・態度の向上を図るために、生徒の興味・関心を引き出す教材研究や教材解釈に努め、導入の工夫や展開時での思考的な言語活動を取り入れて指導していく必要がある。	○クイズ形式の学習を取り入れたり、自分はどう思うか答えさせたり、思考的な言語活動を取り入れて興味関心を高めながら指導していく。そして、関心と知識の定着の両立を図れるように指導計画を弾力的に立案する。また、単元のまとめ等の時間を活用し、自分の言葉でまとめる思考的活動も取り入れていく。
2年	○区の学力調査から、区の観点別平均達成率に対し、全体的に下回っていることがわかった。	○生徒の興味・関心を引き出す教材研究や教材解釈に努め、意欲を喚起してから知識の定着につなげていく必要がある。	○関心と知識の定着の両立を図れるように指導計画を弾力的に立案していく。また、小テストを実施することにより、家庭学習を誘発させ、実施後は結果をフィードバックし知識の定着を図っていく。
3年	○区学力調査の観点別達成率において、区の達成率より 10 ポイント以上上回ることができたことが成果である。 ○領域別にみると、日本の諸地域学習において特に十分な成果が見られた。	○個人差がまだ見られるので、支援を必要としている生徒に対して、さらにきめ細やかに指導していくことが必要である。 ○社会的事象との関連付けや自分の生活と照らし合わせて考えさせることが課題である。	○授業ごとや単元ごとの生徒一人ひとりの達成状況を確認していく。 ・効果的な発問や言葉掛けをすることで、社会的事象と関連付けや生活とのかかわりを意識させる。また、グループ学習等で他の生徒との考え方の違いや共有している部分があることを理解させる。

(3) 数学科

<p>数学科の重点</p> <p>○様々な教科・場面でデータの読み取りや分析、活用ができるようになることを目標に数学に関する基本的な知識や、計算などの数学的技能の定着、論理的に考える力の育成を目指した指導を行う。</p> <p>○数学を日常の事象と結びつけながら指導することを心がけ、数学の概念の理解を深め、積極的に数学を使って考えようとする意識の向上を図る。</p>		数学的な考え方	技能	知識・理解
	1年生	65.9	75.8	67.9
	2年生	50.7	70.8	61.6
	3年生	51.1	73.7	59.9

(平成29年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○区の学力調査では、すべての項目で目標値を上回った。百分率など目標値を少し上回っただけの問題もあった。活用では、正答率が高めであることから、資料から考察する力が強いといえる。	○習熟度別のクラスでも基礎学力に差が見られる。その場では、計算できるが理解が不十分で何日かすると忘れてしまう。答えを出すことにのみ意識しており、その過程を大切にできていない。	○計算の内容は、毎回の宿題と小テストを通して定着を図る。授業では生徒同士で教え合う学習を行い、説明することから自分の理解の不十分さに気付く指導をしていく。さらに、応用問題を解く機会を増やし、興味関心を高めるよう改善を図る。
2年	○区の学力調査では、すべての項目で目標値を上回った。しかし基礎的な力に比べ、活用する力の定着が不十分だとわかった。授業アンケートからは多くの生徒が「わかった・楽しい」と感じていることがわかった。	○生徒の興味・関心を引き出す授業展開を考え、学習した知識を使って解いてみようとする姿勢を育てる必要がある。答えを出すことに関心が行き過ぎてしまい、思考の過程を説明したり、書き記したりすることがまだ十分にできていない。	○習熟度に合わせて教材を工夫し、生徒が興味をもって取り組めるように改善を図る。どの単元でも自分の考えを他の生徒に伝える場面を多く取り入れる。また、ノートの取り方の指導をきめ細かく行い、思考の過程をきちんとノートに残せるように指導する。
3年	○区の学力調査では、すべての項目で目標値・全国平均正答率ともに大きく上回った。しかし区平均正答率では、活用する力のみ上回ることができなかった。内容としては、証明の問題において正答率が不十分であった。	○基礎的な力は十分に身に付いており、活用する力を育てる必要がある。特に、自分の考えを言語化する力や論理的に物事を考える力を育てるようにして行く必要がある。	○単元ごとの習熟度に合わせて少人数編成を組み、生徒一人ひとりが自分のペースにあった授業を受けられるようにする。また、授業の様々な場面で自分の考えを他の生徒に説明する場面を多く取り入れる。そして、生徒間での議論により言語活動を活性化させる。

(4) 理科

理科の重点 ○実験や観察と等の生徒の実践的な活動を 中心に、日常生活における様々な現象や 自然に関する事象を科学的に捉え、自ら説 明できる力を養成する ○言語活動を取り入れ、グループでの意見 交換や自らの考察を文章でまとめ、他人に伝える力を育成する。		思考・表現	技能	知識・理解
	1年生	67.0	73.9	64.8
	2年生	63.6	62.3	54.5
	3年生	67.5	55.0	70.0

(平成29年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○区の学力調査では、ほとんどの項目で区の平均を上回っているが、「生命・地球」の定着ができていない。また、「活用」の部分では、思考・判断力が区の平均を下回っているため、自ら考える機会を増やす必要がある。	○意欲的に授業に取り組むことができているが、発問にも積極的に答えることができる。一部の生徒に基礎・基本の定着が不十分な状況が見られる。そのため、基礎・基本の知識を活用して行う、観察・実験の結果を分析する活動が必要である。	○授業では、復習の時間や小テストの時間を設け、繰り返し学習することで基礎・基本の定着を図る。また、観察や実験の機会を多く取り入れ、生徒自らが結果から考える活動を増やし、その過程を身に付けるようにワークシートを改善して、苦手意識を軽減していく。
2年	○区の学力調査では、全体に区の平均を下回っている。「活用」の部分では区の平均を大きく下回っており、特に表現力についてが課題である。理解した内容を、自分の言葉で伝える力を育てる必要がある。	○実験や観察の内容を予測や想像することせずに取り組む生徒が多く見られる。「なぜこの結果が出たのか」等を考えていく学習が必要である。また、考察など、文章にすることに苦手意識をもっている生徒が多く見られる。	○実験や観察に取り組む前には、時間をかけて予想することを習慣付ける。また、興味・関心をもって実験や観察に取り組めるよう、ワークシート等を改善する。表現力の育成に向けて文章でまとめるだけでなく、グループ活動を取り入れたたり、まとめた意見を発表したりする機会を多くする。
3年	○区の学力調査では、ほとんどの項目で区の平均を上回ることができ、基礎的な知識は定着している生徒が多いことがわかる。一方「観察・実験の技能」では区の平均を下回っており、器具の扱いの部分が不十分である。	○実験や観察等の活動において取り組む姿勢にばらつきが見られる。また、実験結果を基に考察を文章化することに苦手意識がある生徒や実験等の作業の手順や器具の扱いに慣れていない生徒がいる。	基礎的な知識と実際の作業を結び付ける必要がある。身近な例に置き換えて、内容を理解できるようにする。実験や観察などでも、器具の扱いを徹底するとともに結果から考察を導き出せるよう、ワークシートを工夫する。また、発表することで考えを共有していく。

5) 音楽科

<p>音楽科の重点</p> <p>○興味、関心をもつことができる授業を行うことで、学習意欲を高め、生徒が創意工夫して表現する能力を育てる。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業改善を行い、言語活動を充実させて思考力、判断力、表現力を高める。</p>
---

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○題材の中でワークシートを活用して、表現の工夫について考えさせることができた。</p> <p>○自分の考えを上手く文章化できない生徒が多い。</p>	<p>○音楽表現に必要な要素についての例示が足りず、理解が不十分である。</p> <p>○自分の考えや感じたことを言語化することが必要である。</p>	<p>○毎時間の音楽活動と要素を関連付けて考えさせながら、生徒への定着を図る。</p> <p>○感じたことを文章化しやすいようにワークシートを改善する。</p> <p>○生徒が感じたことを引き出せるよう発問を工夫する。</p> <p>○話し合い活動を積極的に取り入れる。</p>
	<p>○楽曲の曲想に合う歌い方をペアで話し合い、実際に練習することで、表現の工夫について考えさせることができた。</p> <p>○ホワイトボードを活用したグループ活動を行い、言語活動を充実させた。</p> <p>○曲想や表現の違いを理解できず、興味、関心をもてない生徒がいる。</p>	<p>○学習内容が難しくなってしまう、理論的になりすぎてしまう。</p> <p>○継続してグループ活動を実施しないと、生徒の思考力、判断力、表現力を高めることができない。</p>	<p>○曲想や表現を感じとりやすく、分かりやすい教材を選び、理論的にならないような授業展開を行う。</p> <p>○継続してグループ活動を取り入れて、互いの考えを深めさせる。</p> <p>○日頃の簡易な曲などから触れさせて興味、関心をもたせる。</p>
	<p>○基礎的な技能があり、表現しようとして活動に取り組むことができている。</p> <p>○ホワイトボードを活用したグループ活動を行い、互いの考えを深めさせた。</p> <p>○主観での表現が多く、音楽的根拠や深さに欠けてしまう。</p>	<p>○主観的な視点と客観的な視点の両方をもたせ、考えさせる指導が必要である。</p> <p>○ねらいからそれた話し合い活動になってしまうことがある。</p>	<p>○ワークシートを活用し、自分の考えを根拠をもって説明できる活動を取り入れる。</p> <p>○ねらいや話し合うポイントを絞り、グループ活動を行う。</p> <p>○なぜそう感じたのかと自分の考えを深化させることができる発問の工夫を行う。</p>

(6) 美術科

<p>美術科の重点</p> <p>○創造的な活動を通して、新たな自分を発見したり、作品の表現から様々なことを感じ、自分自身の存在を肯定したり、他人の存在も受け入れたりするような視野の広さを獲得する。</p> <p>○表現やデザインの基礎的な技法を学び、自らそれを生活の中で活用していく姿勢を身に付け、生活を豊かにすることを目指す。</p>
---

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○制作に向かう姿勢はよく、おおむね意欲的である。</p> <p>○制作への集中が途切れてしまったり、動きが止まってしまう生徒が見られる</p> <p>○表現力や多様性等が不十分な生徒が見られる。</p>	<p>○基礎的な技能を身に付けさせるとともに具体的な理想をもたせる必要がある。</p> <p>○制作への意欲が不十分な生徒がおり、集中力を持続させる指導の工夫が必要である。</p> <p>○表現が似通ってしまう傾向が見られる。</p>	<p>○作品例を提示し、その工夫を具体的に伝えて意欲を促す。</p> <p>○机間指導で十分に観察し、声かけをして発想や制作を促す。</p> <p>○いろいろな物の見方を提示し、様々な方法で発想するように促す。</p>
2年	<p>○基礎的な技能は身に付けており、発展的な発想や技能へと進めている生徒もいる。</p> <p>○制作に意欲的に、集中して取り組んでいる。</p>	<p>○意欲的に取り組んでいるが、表現の深まりとなるような発想ができるようにしたい。</p> <p>○十分に発想を練ってアウトプットしていくような構想をする。</p> <p>○丁寧な作業を常に心がけさせるようにする。</p>	<p>○発想の時間を十分とり、資料を多めに用意し、発想のヒントや制作の工夫となるような声かけを行う。</p> <p>○発想の時点で観察、声かけをし、アイデアスケッチを十分考えてから制作に入るようにする。</p>
3年	<p>○基礎的な技能はあり、集中して取り組むことができている。生徒同士で制作のことについて相談しあい、制作を進めている場面も見られる。</p>	<p>○よく観察し、表現の理想をもたせることが必要である。</p> <p>○苦手意識があったり、作業が雑になったりする生徒がいる。</p>	<p>○表現するときに工夫する点やより効果的な描写ができるようにヒントを提示する。生徒自身が描きたいイメージを明確にし、目標に向かって努力するような指導を行う。</p> <p>○苦手意識のある生徒には、制作の基礎的な作品を提示し、制作を促し、「自分でもできる」という意識をもたせる。</p>

(7) 保健体育科

<p>保健体育科の重点</p> <p>○健康の保持・増進について興味をもち、自らの健康に関心をもって運動する意識を育てる。</p> <p>○グループ活動や言語活動を授業に取り入れ、コミュニケーション力を高めることにより自己表現力を身に付けさせる。</p>
---

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○運動に興味がある生徒が多いが日々の取り組みにつながっていない。</p> <p>○体力テスト等から技能に二極化が見られる。</p> <p>○グループ活動を積極的に行おうとする姿勢が見られる。</p>	<p>○興味、技能が二極化している。</p> <p>○仲間の理解がまだ浅く、適切な学び合い、声かけにつながるような支援が必要である。</p>	<p>○運動に興味を高める言葉かけや準備運動などの導入を工夫する。</p> <p>○保健分野において体の発育発達の基礎知識を深め、中学生の時期が最も身体能力が伸びる時期だという自覚をもたせ、取り組ませる。</p> <p>○係の生徒やリーダーを中心とした授業展開を意図的に計画実施し、生徒主体の活動を多く取り入れる。</p>
	<p>○運動に興味がある生徒とない生徒の二極化がみられる。</p> <p>○言語活動が充実しておらず、グループ活動の内容にはむらが見られる。</p> <p>○基礎基本の習得に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○体力テストにおいて50m 走の結果が平均を下回っている。</p>	<p>○日ごろから運動に対しての興味をもたせることが必要である。</p> <p>○積極的な生徒だけの活動にならないように配慮が必要である。</p> <p>○習得した基礎基本の技能を応用し活用する段階でつまずく生徒が多い。</p> <p>○基礎体力を身に付けることが必要な生徒が多い。</p>	<p>○運動に興味を高める言葉かけや準備運動などの導入を工夫する。</p> <p>○組み合わせが偏らないように單元ごとに工夫する。</p> <p>○基本技能を正確に身に付けるスモールステップの取り組みを増やす。</p> <p>○基礎的運動能力を高める為に單元ごとの特性に沿った補助運動を取り入れる。</p>
	<p>○運動に興味がある生徒が多く、自ら考え行動に移すことのできる生徒がいる。</p> <p>○課題に積極的に取り組んでいるが、技能の習得までに至らないことがある。</p> <p>○体力テストにおいて50m 走の結果が平均を下回っている。</p>	<p>○積極的な集団の中で、運動の苦手な生徒が安心して活動をできるように配慮が必要である。</p> <p>○技能習得のための基礎的な体力をつける為に日常の体力づくりを促すことが必要である。</p> <p>○瞬発力・巧緻性を高めるための補助運動を取り入れることが必要である。</p>	<p>○単元の初めにはオリエンテーションでルールを確認し、簡単な運動からできるようにする。</p> <p>学び合いの姿勢を養う取り組みを多く取り入れていく。</p> <p>○言語活動のルールを決め、生徒自身で進めるようにし、各自が表現できるようにする。</p> <p>○基礎的運動能力を高める為に單元ごとの特性に沿った補助運動を取り入れる。</p>



(8) 技術・家庭（技術分野）

<p>技術分野の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実践的・体験的な学習を多く取り入れ生徒の意欲・関心を引き出す。</li> <li>○基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指す。</li> <li>○技術と社会や環境とのかかわりについての理解を深める。</li> </ul>
---

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作業が遅れている生徒と作業が進んでいる生徒の差がある。</li> <li>○製図が上手くかけない生徒がいる。</li> <li>○「わかった」「できた」と感じる生徒が少ない。</li> <li>○作業中、安全に取り組むことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題への取り組みの際、個別指導が中心になりすぎているため、全体の作業の把握が不十分である。</li> <li>○全体指導においての指導が口頭によるものであるため、一部の生徒には理解が難しいことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ学習を多く取り入れ、生徒が主体的・協働的に学習できるようにする。</li> <li>○スライドや模型などの視覚的資料の準備をする。</li> <li>○生徒一人ひとりの現状を把握し、その生徒にあった個別の課題を与える。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集中力が切れるときがある。</li> <li>○技術と社会や環境についての関わりを考えながら、多角的にものごとをとらえ評価しようとしている。</li> <li>○「わかった」「できた」などの達成感を味わわせる経験が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「エネルギー変換に関する技術」として使用した教材が工夫・創造の余地のないものであった。</li> <li>○基礎的・基本的知識の定着させる時間が少ない。</li> <li>○生徒の実態に合わせた、題材選定ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートの内容を再検討し、生徒が振り返りをする際、学習の流れがわかるようにする。</li> <li>○理科や数学などの他教科とのつながりを意識した授業展開にする。</li> <li>○十分な教材研究をし、扱う題材が生徒にとって工夫・創造する余地があるものを選定する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決学習に対して意欲的に取り組むことができている。</li> <li>○作業が進まない生徒がいる。</li> <li>○コンピュータに対して苦手意識をもっている生徒が見られる。</li> <li>○技術と社会や環境の関わりについて考えようとする生徒が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な学習が不十分であるため、体験的な学習は多く取り入れているが、工夫・創造しようとする生徒が少ない。</li> <li>○苦手意識のある生徒に対しての適切な指導が不十分である。</li> <li>○社会や環境への問題について興味を向ける授業展開が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートの内容を再検討し生徒が振り返りをする際、学習の流れがわかるようにする。</li> <li>○グループ学習を取り入れ、協働的に学習を進める。</li> <li>○視覚的資料の多く活用し、理解を深めさせる。</li> <li>○今日的な話題等を取り上げ、社会や環境の問題について考えさせ、問題解決学習を行う。</li> </ul>

(9) 技術・家庭（家庭分野）

家庭分野の重点  
 ○よりよい家庭生活をつくる実践力と、より主体的に物事に取り組む態度の育成を目指す。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校で習得する基礎的な技能が身に付いていない生徒も見られる。</li> <li>○授業内での発問に対する発言は多く、意欲的に取り組む生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○制作の実習や調理等を通して経験を多く積ませ、生活に必要な技術を確実に身に付けさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○技術を身に付けさせる上で、進度に差が開いた場合は、放課後等に個別の指導を充実させ、知識技能を身に付けさせる。</li> <li>○自らの生活を振り返り、問題点について主体的に考えさせる授業の工夫をする。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほとんどの生徒が授業に集中して取り組んでいるが、一斉の指導では理解しきれない生徒もやや見られる。</li> <li>○実習では、協力し合いながら作業できるが、技能の個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体指導では理解しきれない生徒への対応が課題である。</li> <li>○基礎的な縫製の技術の差が大きいため、個に応じた指導を充実させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークや学習プリントで、授業内で教え合う場を多く設け、実技でもお互いにフォローするよう指導を工夫する。</li> <li>○道具の正しい使用方法を徹底し、定着させる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的に取り組み、実習を計画的に行おうとする生徒が多いが、わずかながら関心の低い生徒も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活形態の変化から、幼児のいる生活について、イメージができない生徒が見られる。また、課題解決する学習の流れについて追いつけかない状況がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族や家庭、幼児についての学習や実習を通して、地域社会へ視野を広げ、社会の一員であることを理解させ、どのようにかかわっているかを考えさせる。</li> </ul>

10) 英語科

英語科の重点 ○「聞くこと」や「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能を総合的に育成する指導を充実させ、外国語を用いて自らの考えや気持ち、事実などを相手に伝える「発信力」を高め、同時に異なる国や文化の人々と外国語をツールとして円滑にコミュニケーションを図ることができる能力を育成する。	外国語表現の能力	外国語理解の能力	知識・理解	
	2年生	84.4	81.8	85.7
	3年生	78.8	77.5	78.8

(平成29年 中野区学力にかかわる調査の結果より)

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○校内の学習アンケートから、多くの生徒は「わかった」「できた」「楽しい」と感じているが、数名はそうではないことがわかった。すべての生徒が意欲的に取り組める教材や指導の工夫が必要である。	○生徒の興味・関心を引き出す教材の工夫を行い、すべての生徒が主体的に学習できるようにすることが必要である。さらに、生徒の学習状況を把握し、習熟度に応じて課題を与え、きめ細かい指導を行う必要がある。	○ICT機器などや教材を効果的に活用する。さらに、ペアワークやグループワークを活用し、課題解決に向けて主体的・協働的に学ぶ活動を取り入れる。ワークシートなどで学習状況を把握し、個に応じた丁寧な指導を行う。
2年	○区の学力調査から、区の平均正答率に対し全体的に上回っていることがわかった。一方で、外国語表現の能力の平均正答率が、他の観点の平均正答率と比べ下回っていることがわかった。話す力だけでなく書く力にも課題があると思われる。	○生徒の興味・関心を引き出す教材解釈や教材開発を行い、4技能を統合した言語活動を継続的に実施していく必要がある。また、生徒が主体的に言語活動に取り組めるよう、生徒にスモールステップの課題を与え丁寧に指導をしていく必要がある。	○各単元において「話すこと」・「書くこと」に関する言語活動の目標を明確にする。言語活動における課題の発見と解決に向けて、ペアワークやグループワークを活用し主体的・協働的に学ぶ学習を実施する。ワークシートなどで学習の達成状況を把握し、つまづきに対し個に応じたきめ細かい指導をする。
3年	○区の学力調査から、区の平均正答率に対し、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」と「外国語理解の能力」が下回っている。特に、長文の読み取りと対話文の応答のリスニングの問題に課題があると思われる。	○生徒の興味・関心を引き出す教材解釈や教材開発を行い、英語が苦手な生徒を底上げしていく必要がある。入試問題に対応できるよう、長文の読み取りと対話文の応答のリスニングに重点を置き、指導をしていく必要がある。	○ワークシートを活用し、生徒の学習状況を把握し、1・2年生の復習を含めた基礎基本の定着に対し、個に応じた指導をする。長文の読み取りを継続的に指導する。言語活動で培った表現力を生かし、リスニングで最もふさわしい選択肢を選べるよう、練習の機会を作り、きめ細かい指導をしていく。